

(様式第4号)

認知症高齢者等支援ネットワーク協議会 会議概要

- 1 審議会名 上田市認知症高齢者等支援ネットワーク協議会
- 2 日 時 平成25年7月30日 午後1時30分から午後3時00分まで
- 3 会 場 市役所南庁舎5階 第3～第5会議室
- 4 出席者 飯島会長、宮入副会長、遠藤委員、佐藤委員、友野委員、中村委員、鷹野委員、
金井委員、辻委員、宮下委員、松井委員、母袋委員、大林委員、水上委員、
清水委員、荻原委員
- 5 市側出席者 徳永高齢者介護課長、小川高齢者介護課高齢者支援担当係長、
- 6 公開・非公開等の別 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
- 7 傍聴者 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成25年7月30日

協 議 事 項 等

- 1 開 会 (高齢者介護課長)
- 2 人事通知書の交付
- 3 委員及び事務局の自己紹介
- 4 会長及び副会長の選出について
会長：飯島会長 副会長：宮入委員
- 5 協議事項
(1) 上田市の認知症施策について (介護支援担当係長)
認知症施策事業の3つの柱について説明
 - 1 認知症施策総合推進事業
 - 2 認知症になっても大丈夫なまちづくり事業
 - 3 権利擁護事業

(委員) QRコードについて具体的に説明をしていただきたい。

(事務局) ご家族の希望により認知症の方の情報(住所・氏名等)をQRコードに入れて、アイロンプリントで認知症の方の衣服に貼り、徘徊時など緊急時に備えるもの。実際に利用されている方は現在のところ数例。

(委員) 認知症の方の人数は潜在的にもっといのではないかと。そういった事を把握しているのか。

(事務局) 国の数字は、介護認定を受けている方の中で認知症の判定基準(日常生活自立度)によって推測している人数。介護認定を受けていない方の中にも認知症の方はいると思われるが、把握しきれない。ちょっとした物忘れでも認知症という数に含まれている方もいると考えると、介護認定を受けている人の6割というのは、実態としては多いのではないかと感じている。

(委員) 厚生労働省は、平成24年度認知症高齢者数の推計は、約462万人に達するという数字を出している。どこまでが認知症と専門医が判断するか微妙なゾーンがあり、漏れている人も多いと思われる。

(委員) 民生委員の立場では独居老人や虐待、認知症の数など、ある程度は把握できる。しかしその中でおそらく見落としがある。その点は高齢者介護課では何か考えはありますか。

(事務局) 認知症の方の早期発見のしくみ作りが重要な課題となる。専門の方の意見をお聞きしながら市としてどうやって取り組むかを検討していきたい。65歳以上の高齢者の方には2年に1度基本チェックリストを配布することで、介護認定を受けていない人で物忘れがある人を把握できるが、その次に繋がる標準的なモデルが無い。拾うだけ拾ってもその先の手段が無い。そのた

めにも認知症ケアパスという、いわゆる認知症の標準的な工程表を作り、早期発見のシステムを動かすためにも、同時に進めていかないといけない。認知症ケアパスについてもこの協議会の中で審議をしていただく機会もあるかと担当としては考えている。

(委員長) 認知症の定義について専門の方もいるので、教えていただきたい。そもそも認知症とは何か。

(委員) 認知症はいろいろな病気によって認知症の状態になる。アルツハイマー型認知症もあれば、突然脳梗塞が起こった後に起こる場合もあり、様々な広い概念がある。

認知機能の低下がみられる最も早期の状態を経度認知障害(MCI)と言うが、加齢に伴い、平均的な速度から見ると少し認知機能が落ちていて、生活に支障をきたす状態を専門家は認知症として評価する。誰かの手が必要な状態になって初めて認知症と診断を出すようにしている。

最近では、健康ブームで脳ドッグを毎年受けている人がいる。画像上認知症と診断されても、生活に支障もなく社会生活を送っている方もいる。早期発見といってもその評価をどのように活かしていくのかというシステム、施策を作っていかなければならない事は確かだと思う。

(委員) 認知症サポーターの養成は現在でもやっているのか。

(事務局) サポーター養成講座は平成 17 年度から “目指せ 100 万人キャラバン” として国の事業でスタートした事業。現在は全国で 100 万人を突破しており、上田市でも平成 17 年度から毎年養成は続けており、多くの方に受けていただいている。認知症サポーター養成講座を開けるキャラバンメイト養成や、そのキャラバンメイトのフォローアップ講座も上田市で行っている。昨年より小学校でも開催している。市民や自治会だけでなく、できれば企業、職域にも幅を広げていきたいと考えている。

(委員) やすらぎ支援員事業について教えていただきたい。

(事務局) 平成 24 年度から上田市でやすらぎ支援員を養成し、在宅で生活する認知症の方の話し相手としてボランティアの派遣をしている。派遣にあたっては、地域包括支援センターやケアマネと連携を取りながら、介護保険サービス以外のケアプランとして位置づけている。

(委員) 現在何名の支援員がいるのか。

(事務局) 現在の登録者数は 19 名である。今後も必要に応じて養成していくが、意欲がある方が支援員として登録されているので、全員の方に支援に入ってもらいたいと考えている。実際に支援に入らせていただいている家庭では大変喜ばれているので、何とか広げていきたい。

(委員) 認知症連携クリティカルパス(あったか手帳)は少しずつ医療機関で使われてきている。認知症の方が医療機関に入院したり、その後別の施設へ行く際に手帳をご家族が保持することで情報を共有できる。上田市の認知症施策の説明の中の認知症ケアパスとクリティカルパスとはどのような関係なのか。

認知症ケアパスは何を目的としたものなのかももう少し詳しく教えていただきたい。

(事務局) クリティカルパス(あったか手帳)は平成 24 年度から発行しているが、これは認知症に関わっている医療機関などが、認知症の方の情報を共有するための手帳。

認知症ケアパスは、認知症の早期診断は上田市ではどこでできるのか、などサービスを選べる工程表のようなもの。既にクリティカルパス(あったか手帳)ができていますので、この中にケアパスの情報を何ページか挟んでいきたい。

県の方も見えているのでここでお願いしたいが、認知症ケアパスの作成にあたっては、上小で取り組んでいきたいと考えている。将来的には、二次医療圏で医療機関についてはしくみ作りができれば良いと考えているので、またご支援をお願いします。

(委員) 国の施策で、地域ごとに認知症に対する標準工程表を作りなさいというもので、行政が主体で作成するパスと解釈してよいか。

(事務局) その通りです。クリティカルパスは、医師が認知症の方の診察をする際、その方が今どういった状況で生活をしているのかを知る上でも大切な情報提供だと考えている。ただ、このクリティカルパスは上田市単独で作っているものではなく、信州精神地域連携会議で作成しているものなので、市独自のページを設けさせてもらいたいとお願いしてある。今後ケアパス作成にあたり、また協議事項として残していただきたい。

(委員) 成年後見センターについて どのくらいの相談があってどのような動きか知りたい。

(事務局) 平成 24 年度の実績では、相談件数が 983 件、内上田市が 780 件。

- (委員) 認知症高齢者の方の相談が一番多かった。市民後見人についてもこれから進めていかなければならない課題の一つ。現在専門職としては、弁護士会、司法書士会、行政書士会、社会福祉士のパートナーという団体など今後もまだまだ選任はしていかれる状況。社会福祉士の方の中にも名簿に登載できる要件がそろっている方が大勢いらっしゃるが、他で仕事をしている中で活動となると躊躇してしまう方がおられるという現状もあり、市民後見人も必要とセンターでも感じている。
- (委員) 今の話を聞いていてもよくわからない。この協議会の委員はどういう立ち位置で何をやっていけばいいのかこのままだとわからないというのが正直なところです。
- (事務局) ネットワーク協議会の設置要綱 目的の第1条で 認知症の方がいつまでも地域で安心して暮らせるためには、どうしたら良いかという事について御提言をいただきたいと考えている。様々なお立場で活躍されている皆様の忌憚のない御意見をお聞きしたい。
- (委員) 専門職ばかりで話し合っても偏ってしまう。さまざまな立場からの御意見をこの会で是非反映していただく事で、地域全体の情報を網羅することができ、この会は素晴らしい会になると思う。
- (事務局) 今まで認知症のケアの流れは、専門家の中で、入院したりサービスを提供したりする過程で来た。認知症の方を地域で支えていくには、様々な人の御意見が必要だと考えている。認知症ケアの流れを変えていきたいと上田市は考えている。
- (委員) 平成24年度 上田市で13件の行方不明の事例があり、その内5人の方が認知症だった。全員無事保護された。行方不明が発生するとまず、届出は警察へ出してもらい、警察犬の導入、聞き込み、消防署としては上田市のメール配信を使った情報提供、捜索本部の設置、近隣の消防本部との連携、消防団への協力依頼、自治会への協力依頼等、ネットワークはできている。困るのは、認知症がある事を隠す家族が少なくない。早いうちに認知症だとわかっていると捜索の仕方も変わる場合もある。
- (委員長) 長い間認知症というのは、親を子どもが介護してきたという傾向が強かったと思う。より良いケアをどうするのかという事を上田市として我々も市民目線で協議会のテーマにしていけばと思う。
- (事務局) ただいまは、それぞれの議題にご協議をいただきまして、誠にありがとうございました。本日いただいたご意見の中で、今後必要に応じて検討委員会を開催し、施策に反映していきたいと思えます。
これで閉会とさせていただきますが、次回の会議につきましては、今後 御連絡させていただきたいと思えます。
それでは、以上をもちまして、平成25年度 第1回上田市認知症高齢者等支援ネットワーク協議会を閉会といたします。ありがとうございました。